

特任研究員選考結果報告

特任研究員選考委員会
委員長 中尾 茂

2020年度「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」で採用する特任研究員の選考結果について、以下の通り報告します。

選考経緯

- 2019年10月25日 特任研究員雇用申請の受付開始。
- 2019年12月6日 同 締め切り（申請件数3件）
- 2019年12月20日 東京大学地震研究所企画部室にて選考委員会を開催。
委員は、吉田真吾（企画部長）、加藤尚之（東京大学地震研究所地震火山噴火予知研究推進センター長）、西村太志（戦略室長）、中尾茂（予算委員長）。
互選により中尾を委員長に選出。
申請書に基づいて審査を行い、2件の採用を決定。
- 2020年1月17日～1月24日 協議会委員にメールで意見照会。
- 2020年1月27日 申請者に採用結果を通知。

採用した申請の概要

（申請1：新規）

申請者所属・職名：氏名

東京大学大気海洋研究所・准教授・朴進午

研究課題名[課題番号]

巨大津波を引き起こす震源断層の実態解明と流体変動モニタリング[AORI01]

特任研究員氏名

Ehsan Jamali Hondori（東京大学大気海洋研究所・特任研究員）

特任研究員の研究分担内容・必要性、推薦理由など

浅部プレート境界断層（デコルマ）や大規模アウターライズ地震断層の構造と間隙水圧を高精度で明らかにするためには、高精度地殻構造イメージング手法と高精度速度構造モデリング手法が必要である。特任研究員は、これらの手法を使い、高精度構造イメージングや間隙水圧推定を担当する。

Hondra氏は高精度地殻構造イメージングなどの地殻構造イメージングとプレート境

界断層の間隙水圧推定などの物性推定で研究成果がある。また、海洋での反射法・屈折法地震探査データの取得・解析に豊富な経験と知識を持っており、コミュニケーション能力も高い。以上から、本研究計画への貢献が期待できる。

部局の経費負担：50%

(申請2：新規)

申請者所属・職名：氏名

東京大学史料編纂所・教授・榎原雅治

研究課題名[課題番号]

地震火山関連資料の収集・分析とデータベースの構築・公開 [UTH_01]

特任研究員氏名

西山昭仁（東京大学地震研究所・助教）

特任研究員の研究分担内容・必要性、推薦理由など

既刊地震史料集に所収されている史料本文をデジタルデータ化するための校訂作業やデータベース構築に関する研究統括を担当する。さらに被害発生場所を分析し、史料データに緯度・経度の情報を組み込むための研究を担当する。

西山氏は長い間歴史地震の研究に従事し、地震火山関連史料の調査・収集・読解に習熟している。地理情報システムを用いた実績もあり、本研究計画への貢献が期待できる。

部局の経費負担：なし

選考委員会の選考結果理由

選考委員会は、特任研究員創設の経緯などから、若手研究者育成の観点から選考することを確認した。その上で、申請のあった3件について申請書に基づき、研究員の必要性和候補者の妥当性について議論した。

その結果2件の申請を採択とした。申請1は巨大津波を発生させる断層に関する研究成果が期待される課題であり、申請2は史料・考古分野における文理共同による研究課題であり、重点的に支援する必要のある研究分野である。

2件の申請はともに特任研究員の役割が明確にされており、必要性が妥当であると判断した。候補者については、業績および経歴から特任研究員の役割を遂行できる能力を有しており、雇用によって成果が期待できると判断した。

特任研究員の採用予定人数は年2名であり、予算案には2名分の特任研究員の雇用経費が計上されている。申請1は受入部局が雇用経費の50%を負担できることであるので、申請1については、本研究計画からの雇用負担は50%が妥当と判断した。